



図① かかしと電磁柵



図② 「ぼうけんのもり」でのネイチャーゲーム



図③ ケナフ栽培のワークシート



図④ 「ぼうけんのもり」「自然観察路」の植物などを紹介する手作り教材

■実践内容:

(1) 「ぼうけんのもり」「自然観察路」「学校農園」の整備

○PTA・地域の方々の協力により、下草刈り、シイタケのサル被害防止用ネットはりなど、児童が活動しやすい整備がなされた。おかげで、ネイチャーゲームを取り入れた環境学習(図②)、理科での自然観察、図工や音楽での活動、休み時間での「ぼうけんのもりで遊ぼう週間」など、各学年の指導計画等に基づいた学習活動を展開することができた。

○20年度夏、学校農園がサル被害にあったことをきっかけに、飼育・栽培委員会を中心に「サルから畑を守ろう」と児童に呼びかけ、柵を作る提案がなされた。地域の方の協力をいただき、電磁柵を設置するとともに、4年生がサルや鳥の侵入を防ごうと「かかし作り」に取り組んだ。その成果があり、学校農園でのトウモロコシ・ゴーヤ(4年生)、夏野菜・ケナフ(2年生)、サツマイモ(全学年)カボチャ・スイカ・サトイモ(栽培委員会)などの作物の観察活動が十分行えたのに加え、収穫が可能になった。

(2) 児童の問題解決能力と言語力の育成のための授業改善

○「ぼうけんのもり」「自然観察路」に生育する樹木、草花、昆虫などを撮影し、掲示したり、ファイルしたりして、観察の資料として活用することにより、身近な環境への気づきや発見の手がかりとした。(図④)また、実験・観察素材の吟味やワークシートの活用(図③)などを通して授業改善に取り組んできた。

■実践成果:

校地に隣接する「ぼうけんのもり」とその周辺の整備により、四季の変化が捉えやすく自然観察の場として活用できるようになった。各学年が学習内容に合わせて計画的に活用することで自然・事象について、実感を持った理解ができるようになった。また、学校農園での栽培活動では、除草作業、サルやカラスからの防護など自然と向き合うことの大変さと栽培活動の難しさを実感でき、児童自らが問題解決していこうとする態度がみられた。また、教員が児童の実態を踏まえ、児童の問題解決能力や言語力を伸ばさせる手だてとして、実験・観察素材の吟味やワークシート作成など授業実践上の工夫に努め、授業改善を図ることができた。

■実践ポイント:

○観察・栽培に関わる環境整備には、PTA・地域の方々の協力が必要であり、連携協力をより緊密にすることが重要である。

○授業改善を図るため、地域の教育素材を吟味し活用するとともに、地域の人材協力を引き出し、児童の実態に即した授業実践に結びつけていくことが大切である。